

はを義康神もぬきの悲しみも夢も知り玉に何心
く馬に尻水通し玉ふ西を福むし打は胸板を打ぬり水
折もたぬに馬より落玉ふ急所の痛も水も休まず
玉ひきり内儀の人々殺きて死もの狂ひも切てかれ左の
草むより伏兵も出て出入も破さん計れりて牛
に赤沙林三郎兵衛宗長の馬より飛せり戸井羊太夫
を討て一字も飛ぬりて所を伏兵のうち矢倉源太夫
と云者後より牛と組付て返して見けるうち左
右前後より兵卒も取付て宗長とて世を矢倉
を牛にはかんと投げ付左の敵を臨拂ひ殺戸井に

かえとて戸井つる上に長刀を以て打てる所は打もの
さしかさしかりたるは戸井より即等後より赤沙林より足拂
切は打たぬ言ふ股切て落れ今に是と云ふといかに討て
此者も主君修理太夫殿を執着の爲に此子尚分不和
あるに依て悲く老翁を感して此山へ入らせ玉ふ所は道
不義のふりまゐるを義光公の御見は後悔あり汝ら
安福ありまゝそ刀を取盡し已う首を掻き落し矢に
きりて半た馬程を清水大花太夫の逆の砂大隈へ
内通の沙汰頭を一門悉く誅討せられり是義康公
を害せし天罰眼前ありと諸人々をふるひたり